

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ **A型肝炎**の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は全身倦怠感、発熱及び黄疸等です。感染地域は国外(ネパール)で、感染経路は経口です。本年初めての報告です。
- ・ **日本紅斑熱**の報告が2例(60歳代男性及び50歳代女性)あり、いずれも症状は発熱、頭痛、刺し口、発疹及び肝機能異常、感染地域は国内、感染経路はマダニです。本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ **マラリア**の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は発熱、悪寒及び下痢です。感染地域は国外(コンゴ)で、感染経路は蚊です。本年初めての報告となっています。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(50歳代男性)あり、症状はショック、腎不全及び軟部組織炎等です。本年の累積報告数は4例となりました。
- ・ **ジアルジア症**の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は下痢です。感染地域は国外(インド)で、感染経路は経口、水系です。本年の累積報告数は2例となっています。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が2例(90歳代男性及び70歳代女性)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は15例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が2例(40歳代男性及び60歳代女性)ありました。感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は6例となりました。
- ・ **百日咳**の報告が2例(10歳未満及び10歳代男性)あり、症状は持続する咳、夜間の咳き込み等です。感染地域はいずれも国内です。本年の累積報告数は12例となりました。
- ・ **風しん**の報告が2例(40歳代男性及び女性)あり、症状は発熱、発疹等です。いずれも感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は4例となりました。
- ・ **麻しん**の報告が1例(20歳代男性)(第6週追加報告分)ありました。症状は発熱、鼻汁、粘膜充血、コプリック斑及び発疹です。感染地域は国内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染です。本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は、前週の21.64(1,493例)から9.45(652例)と減少しました。

◆ 今週のトピックス:<日本紅斑熱>

日本紅斑熱の報告が2例あり、本年の累積報告数は3例となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ **二類:結核 6例**(肺結核 5例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者1例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 35例(肺結核 14例, その他結核 5例, 潜在性結核感染者 16例)うち喀痰塗抹陽性 7例】
- ・ **四類:A型肝炎 1例**【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ **四類:日本紅斑熱 2例**【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ **四類:マラリア(四日熱) 1例**【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ **五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例**【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ **五類:ジアルジア症 1例**【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ **五類:侵襲性肺炎球菌感染症 2例**【1月以降の累積報告数 15例】
- ・ **五類:梅毒 2例**【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ **五類:百日咳 2例**【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ **五類:風しん 2例**【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ **五類:麻しん 1例**【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	9. 45	652
小児科	① 感染性胃腸炎	4. 95	213
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1. 21	52
	③ 伝染性紅斑	0. 79	34
	④ 咽頭結膜熱	0. 23	10
	⑤ RSウイルス感染症	0. 16	7
眼科	流行性角結膜炎	0. 30	3

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<日本紅斑熱>

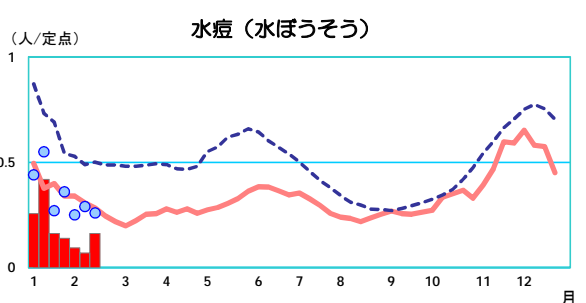
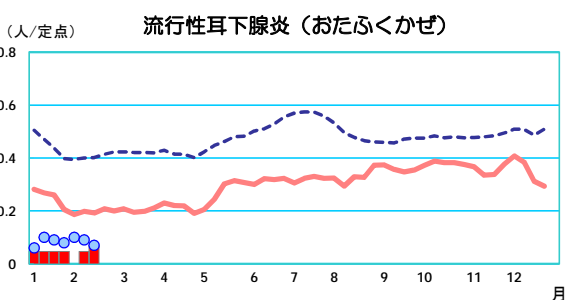
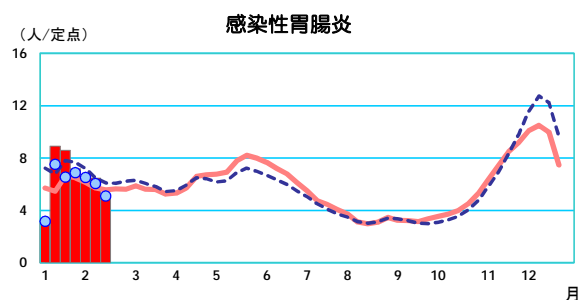
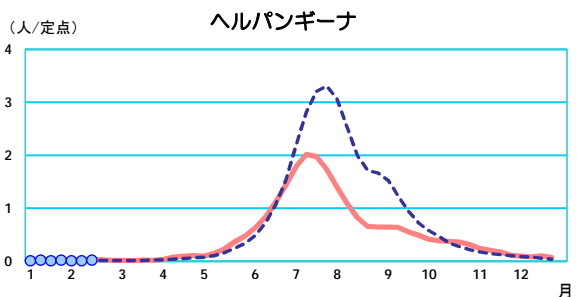
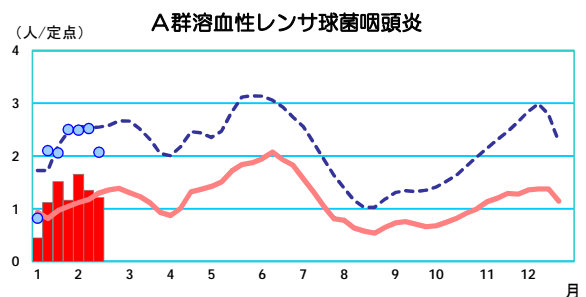
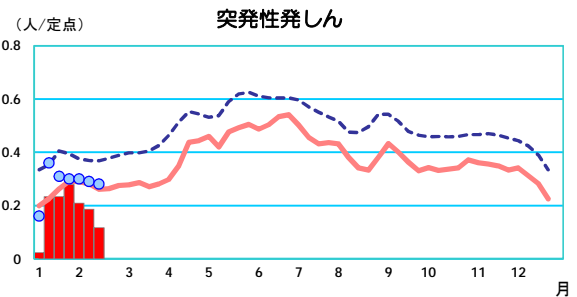
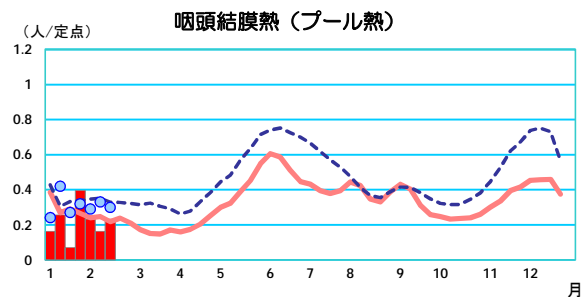
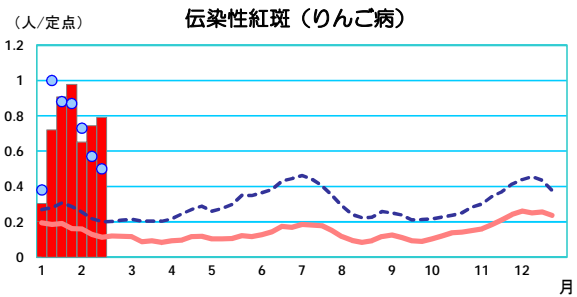
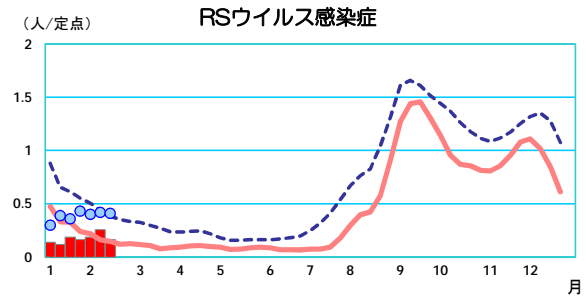
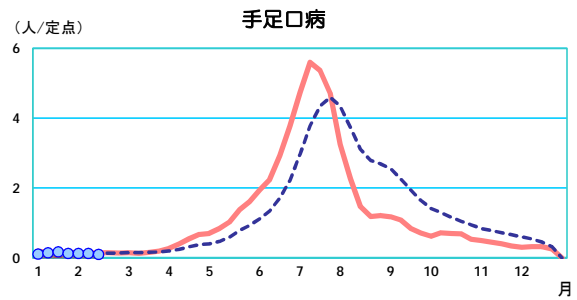
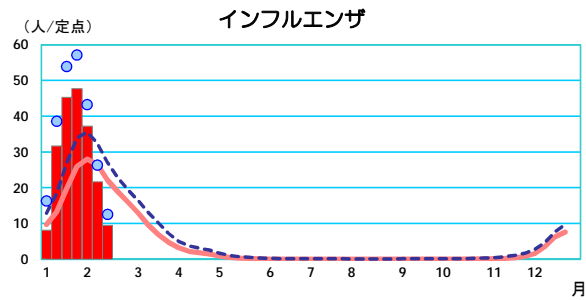
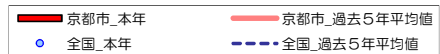
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年2月20日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第7週(2月11日～2月17日)トピックス: <日本紅斑熱>

日本紅斑熱の報告が2例あり、本年の累積報告数は3例となりました。京都市では「感染症法」が施行された平成11年4月以降、平成23年、平成27年、平成29年に次ぐ7例目の報告となっています。

日本紅斑熱は紅斑熱群リケッチアの一種を起因病原体とし、野山に入り病原体を持ったマダニに刺咬されることにより感染します。平成7年頃から増加の傾向にあり、夏を中心に春から秋にかけて長期間発生しています(図1)。また、都道府県別では三重県、和歌山県、広島県など西日本を中心に発生地域の偏りが見られます(図2)。

臨床症状は、頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症し、発熱・発疹・刺し口が主要3兆候で、潜伏期間は2～8日です。

予防は、ダニの刺咬を防ぐことが重要で、農作業や森林作業などでダニの発生地に立ち入る際は、皮膚の露出を少なくし、ダニ忌避剤を使用します。作業後は、衣類を洗濯し、入浴して身体へのダニの付着を確認します。万一咬まれていた場合は、指でつぶしたり無理に引き離すと化膿することがありますので、医療機関で処置してもらいましょう。

京都市衛生環境研究所では、マダニに関する情報を御紹介していますので、ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゅす(平成29年度 第1号) マダニにご注意！

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>

海外旅行でも感染の危険があります。以下のホームページを参考に、ダニが媒介する感染症から身を守りましょう。

【厚生労働省検疫所】虫除け対策をしよう

<http://www.forth.go.jp/useful/attention/14.html>

【厚生労働省】夏休みにおける海外での感染症予防について

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html

図1 全国の日本紅斑熱報告数の推移

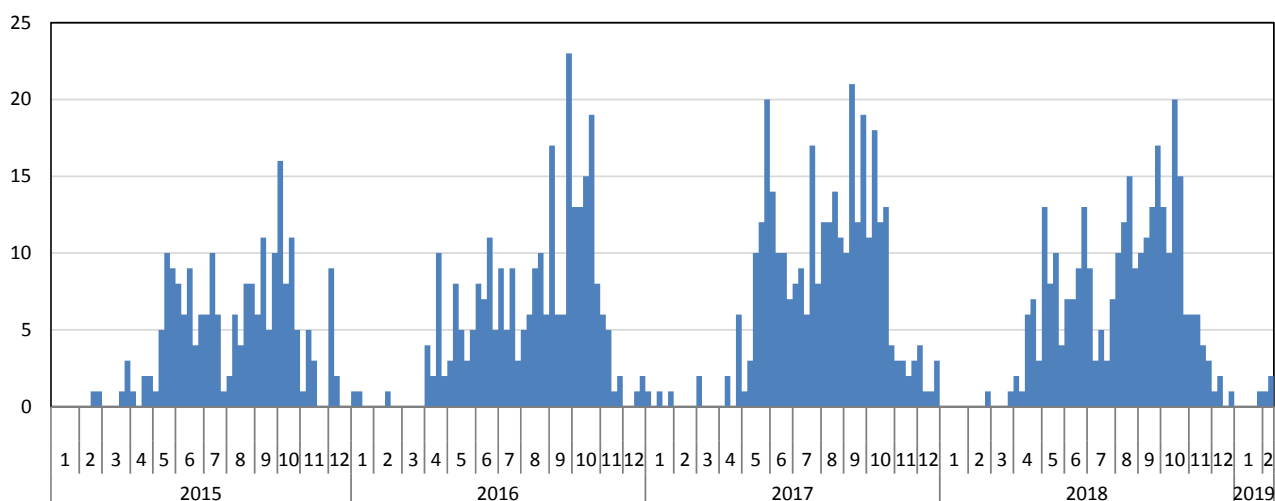
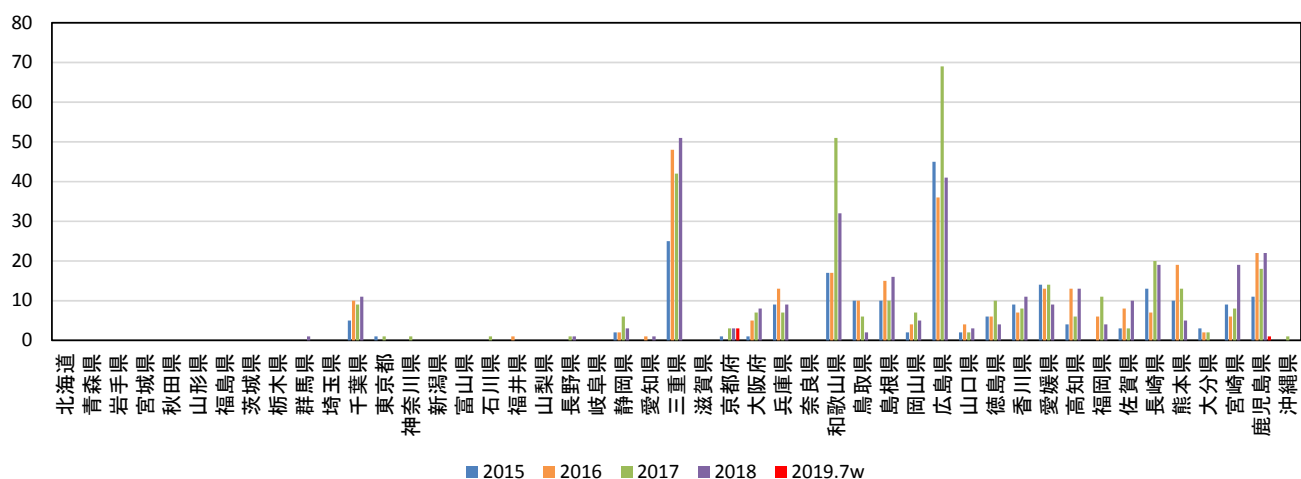


図2 都道府県別報告数の年別推移



T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第7週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年2月11日～2019年2月17日

データ入手日:2019年2月20日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	65歳－	70歳以上				
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	652	1	10	40	36	37	31	35	40	24	22	26	76	26	41	62	56	31	22	18	18
RSウイルス感染症	年齢3	7	－	2	3	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		10	1	－	1	－	1	5	1	1	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		52	－	－	1	4	4	5	6	6	6	5	3	6	2	4						
感染性胃腸炎		213	1	21	24	24	21	18	10	14	11	4	13	23	3	26						
水 痘		7	－	－	1	－	3	－	－	－	1	2	－	－	－	－						
手 足 口 病		3	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1						
伝 染 性 紅 斑		34	－	－	2	3	4	11	5	2	2	3	－	1	1	－						
突発性発しん		5	－	2	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		3	－	－	－	－	－	1	1	－	1	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		3	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	9.45	0.01	0.14	0.58	0.52	0.54	0.45	0.51	0.58	0.35	0.32	0.38	1.10	0.38	0.59	0.90	0.81	0.45	0.32	0.26	0.26
RSウイルス感染症	年齢3	0.16	－	0.05	0.07	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.23	0.02	－	0.02	－	0.02	0.12	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.21	－	－	0.02	0.09	0.09	0.12	0.14	0.14	0.14	0.12	0.07	0.14	0.05	0.09						
感染性胃腸炎		4.95	0.02	0.49	0.56	0.56	0.49	0.42	0.23	0.33	0.26	0.09	0.30	0.53	0.07	0.60						
水 痘		0.16	－	－	0.02	－	0.07	－	－	－	0.02	0.05	－	－	－	－						
手 足 口 病		0.07	－	－	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.02						
伝 染 性 紅 斑		0.79	－	－	0.05	0.07	0.09	0.26	0.12	0.05	0.05	0.07	－	0.02	0.02	－						
突発性発しん		0.12	－	0.05	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.07	－	－	－	－	－	0.02	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.30	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	－	－	－	－	0.10	－	－	0.10	－	－	
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第7週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年2月20日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		2,185	3,125	3,292	2,568	1,493	652
RSウイルス感染症		5	8	7	8	11	7
咽 頭 結 膜 熱		11	3	17	10	7	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		48	65	50	71	58	52
感染性胃腸炎		383	369	308	282	278	213
水 痘		18	7	6	4	3	7
手 足 口 病		4	2	1	2	3	3
伝 染 性 紅 斑		31	39	42	28	32	34
突発性発しん		10	10	12	9	8	5
ヘルパンギーナ		1	－	2	－	3	－
流行性耳下腺炎		2	2	2	－	2	3
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		8	1	1	1	2	3
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		2,706	3,631	3,740	2,983	1,900	989

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		31.67	45.29	47.71	37.22	21.64	9.45
RSウイルス感染症		0.12	0.19	0.16	0.19	0.26	0.16
咽 頭 結 膜 熱		0.26	0.07	0.40	0.23	0.16	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.12	1.51	1.16	1.65	1.35	1.21
感染性胃腸炎		8.91	8.58	7.16	6.56	6.47	4.95
水 痘		0.42	0.16	0.14	0.09	0.07	0.16
手 足 口 病		0.09	0.05	0.02	0.05	0.07	0.07
伝 染 性 紅 斑		0.72	0.91	0.98	0.65	0.74	0.79
突発性発しん		0.23	0.23	0.28	0.21	0.19	0.12
ヘルパンギーナ		0.02	－	0.05	－	0.07	－
流行性耳下腺炎		0.05	0.05	0.05	－	0.05	0.07
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		0.80	0.10	0.10	0.10	0.20	0.30
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		44.40	57.13	58.21	46.95	31.26	17.52

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。